# 日女薬カレントニュース

第 38 号

第 38 号（2025 年 2 月配信） コンテンツ

小縣悦子会長からのご挨拶
1. 医薬品情報・学会ニュース　第 23 回老年薬学アップデート参加報告
2. ヘルスケア業界トピックス　毎年2月は全国生活習慣病予防月間
3. 医療安全確認クイズ　重篤副作用疾患別対応マニュアル「甲状腺機能低下症」
4. 各委員会から　医療安全 Web セミナー参加報告（2024 年 12 月 8 日（日）開催）
5. 医療安全確認クイズの答えと解説

## ご挨拶

日女薬カレントニュースならびに日女薬メールマガジンをご覧の皆様、日頃より、日本女性薬剤師会の事業にご参加くださりありがとうございます。このたび、近藤芳子先生のご逝去に伴い、日本女性薬剤師会の会長をお引き受けしました小縣（おがた）です。

日本女性薬剤師会は、1966 年 故秋島ミヨ先生により組織化されました。女性が働きづらかった時代に、女性が多い薬剤師の仲間が集い、出産・子育て・家事・介護等、働く女性が抱えている諸問題を解決し、支援するための施策や環境整備、医薬分業の推進、薬剤師職能の正しい評価・発展に政治力が不可欠であることを訴えました。

その後、2004 年 秋島ミヨ先生のご逝去に伴い、近藤芳子先生が第 2 代会長を引き継ぎ、昨年、その天寿を全うされました。この間、私たちは、薬剤師として時代の変化をスピーディーに読み取り、国の施策はもとより、会員相互の連携と協調に努めてまいりました。

日本女性薬剤師会では、2003 年 在宅医療が推進され、薬剤師との関わりの必要性を受け止め、他団体のどこよりも早く、秋田県女性薬剤師会の協力を得て「保健・医療・福祉のかけはしになろう」をメインテーマに第１回移動セミナーを開催しました。2004 年からは、学術講演会を開催し、2005 年には、卒後教育や休職中の薬剤師の知識の補完のために通信教育講座を開講しました。その後も時代の先を行くテーマを掲げて活動を継続し、今日に至ります。ブロック大会も 1966 年から学術事業のひとつとして継承され、長く続く日本女性薬剤師会の地域活動です。ブロック研修会に伴って行われる懇親会では会員相互の交流と親睦が図られ、情報交換により、女性薬剤師の団結を図る重要な機会になっていると思います。

また、日本女性薬剤師会は、2008 年 有限責任中間法人を経て、初代会長の時からの悲願であった「一般社団法人日本女性薬剤師会」へ移行しました。「会員相互の連携のもとに女性薬剤師の社会的地位の向上を図り、国民の保健・医療および福祉の向上発展に寄与する」ことを設立目的で定めたものです。働く女性薬剤師の支援体制整備を国や地方自治体、大学などと連携して様々な事業において実施しています。

さらに、2012 年 12 月 14 日付けで薬剤師認定制度認証機構のプロバイダー（G16）となり、薬剤師に対し、生涯学習を推進して薬剤師の資質及び専門性の向上に寄与し、わが国の医療環境の向上と国民の健康の確保に貢献する立場となりました。

薬剤師の医療における役割と薬剤師への期待は、年々、多岐に渡ってきています。地域によりその特徴は様々ですが、日本女性薬剤師会は、職能団体であり、私たち薬剤師自身の地位の向上を目指しながら、地域包括システムの中で他職種と連携してより信頼され期待される仕事を担うことができる薬剤師の育成を目指しています。6年制の薬学部を卒業された方々の活躍も顕著になってきました。若い力もいただきながら、引き続き、女性ならではのきめ細やかな気配りと優しさをもって、患者と患者家族に寄り添った薬剤師として期待に応えられるよう、日本女性薬剤師会の仲間と一緒に研鑽を積んでいただきたいと思います。

日女薬カレントニュースは本号で廃刊しますが、2025 年度からは日女薬メールマガジンとして、引き続き有益な情報を迅速にお届けします。今後も日本女性薬剤師会の会務にご理解とご協力を賜りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 2 月

一般社団法人日本女性薬剤師会　会長　小縣 悦子

## 1.　医薬品情報・学会ニュース

### 1-1　厚生労働省ホームページより

★薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について（令和 7 年 2 月 1 日適用）

★緊急避妊に係る取組について｜厚生労働省 (mhlw.go.jp)

・施設紹介：対面診療が可能な医療機関一覧（最終更新　令和 6 年 12 月 27 日）

≫ オンライン診療の場合の薬局での調剤について

現在、処方箋なしで緊急避妊薬を薬局で販売することは認められていません。処方箋調剤に関しては、対面診療による処方箋発行の場合は薬剤師が調剤しますが、オンライン診療に係る処方箋の場合は、基準に沿った研修を受講した薬剤師のみしか調剤できません。オンライン診療に係る緊急避妊薬の調剤が対応可能な薬局及び薬剤師の一覧（令和 6 年 10 月 31 日現在）

昨年度から厚労省の委託を受けて、日本薬剤師会は予期せぬ妊娠の可能性が生じた女性が処方箋なしに緊急避妊薬を適切に利用できる仕組みを検討するために、薬局での販売方法などについて情報を集めるための調査研究を行っております。この調査研究は、各都道府県の中で一定の条件を満たす一部の薬局においてのみ、処方箋なしで緊急避妊薬の購入希望者を調査研究対象者として販売することが可能です。（緊急避妊薬試験販売事業）。事業の概要や参加する薬局等はこちらからご確認ください。R5 年度の研究事業の報告書及び概要書はこちらに掲載しております（R6 年 5 月 10 日掲載）。

1-2　HPV ワクチンキャッチアップ接種の広報について（R7 年1月 29 日掲載）

詳細はこちらから　⇒HPV ワクチンキャッチアップ接種の広報

「公費による HPV ワクチン接種（キャッチアップ接種）」期間のお知らせ

平成 9～19 年度生まれの女性へ：

〇子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの接種を逃した方に、公費による接種の 機会をご提供しています。

〇2024 年夏以降の大幅な需要増により、HPV ワクチンの接種を希望しても受けられ なかった方がいらっしゃいます。そのため、2025 年3月末までに接種を開始した方が、 全3回の接種を公費で完了できるようになりました。

◎ 公費での接種期間は 2026 年 3 月 31 日までです。

案内チラシが入手可能です。こちらから⇒　HPV ワクチンキャッチアップ接種の広報

1-3　日本老年薬学会第23回老年薬学アップデート

演題 2　高齢者心不全の薬物治療

三重ハートセンター薬局長　　高井　靖　氏

2024 年度薬剤師継続学習通信教育講座　第 5 回　心不全　に関連した講演で、第 5 回テキストを参照することでさらに理解が深まります。

近年、高齢者の増加と共に慢性心不全患者は増加しており、増悪による再入院率の高さが問題となっています。その主な要因として、塩分・水分制限や服薬アドヒアランス不良があげられており、退院後の管理支援が求められています。高齢者心不全患者は拡張不全が多く、自覚症状が現れにくいこと、併存疾患が多く治療も一筋縄ではいかないことも多く、退院後もそのフォローアップが重要で、病院薬剤師と薬局薬剤師の薬薬連携による患者教育とセルフモニタリングが欠かせません。SGLT2 阻害薬は糖尿病薬ですが、利尿作用により心不全を予防し、LEVF（左室駆出率）の保たれ

た HFpEF 患者に対しても心不全による再入院率を 27%低下させ、ループ利尿薬を減らせる一方で、低血糖、脱水、ケトアシドーシスに注意が必要です。心不全フォローアップには心不全手帳を活用したセルフケア指導が疾病管理に有用で、薬局薬剤師にもポイントを是非知っておいていただきたいと強調されました。

心不全手帳第 3 版はこちらからダウンロードできます ⇒ 心不全手帳第 3 版

**2. ヘルスケア業界トピックス 全国生活習慣病予防月間**

**毎年 2 月は「全国生活習慣病予防月間」です。2 月 1 日よりスタートした「全国生活習慣病予防月間 2025」のテーマは、日本生活習慣病予防協会の健康スローガンである『一無（無煙・禁煙）、二少（少酒、少食）、三多（多動、多接、多休）』（右図参照）より**

**「少酒～アルコールは少量をたしなみ、ほどほどに！」です。**

**我が国は少子・高齢化社会のなかで、女性の活躍が期待されています。それに伴い女性の飲酒機会も増えていると考えられます。厚生労働省による「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人」（令和 4 年 国民・健康栄養調査）の報告では、男性の割合は高いものの、30 代から 50 代の男女間の差は接近していることが示されています。**

**女性はアルコール分解速度が低く、男性より早く様々な健康障害が起こりやすいといわれています。全国生活習慣病予防月間 2025 では、「女性のための少酒」として、とくに女性とアルコールに焦点をあて、アルコールの健康障害や減酒治療の第一人者である吉本 尚先生（筑波大学医学医療系 地域総合診療医学准教授）を講師にお迎えし、最近のトピックスを取り上げて、「からだにやさしいお酒のたしなみ方」（仮）についてご解説いただきます。Web 講演会と特設サイトを 2 月上旬に公開予定です。 ⇒毎年 2 月は生活習慣病予防月間：生活習慣病予防協会**

参考 1） 全国生活習慣病予防月間 ポスター・リーフレットのダウンロード

参考 2） 生活習慣病のリスクをチェック

**3. 医療安全確認クイズ （答えは 5. 医療安全確認クイズの答えと解説参照）**

**免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象は多岐にわたるため、包括的な理解を深める観点から、免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象対策マニュアルが作成されています。本年度は重篤副作用疾患別対応マニュアルから、関連する重篤副作用をシリーズで取り上げていきます。今回は代謝・内分泌疾患のひとつ「甲状腺機能低下症」からの出題です。**

重篤副作用疾患別対応マニュアル「甲状腺機能低下症」

**Q.重篤副作用疾患別対応マニュアル「甲状腺機能低下症」に関する記載のうち誤りはどれか？**

1. 血液中の甲状腺ホルモンが減って新陳代謝が悪くなる甲状腺機能低下症では、「甲状腺腫（首もとの腫れ）」、「やる気がおこらない」、「疲れやすい」、「まぶたが腫れる」、「寒がり」、「体重の増加」、「動作がおそい」、「いつも眠い」、「物忘れが多い」、「便秘」、「かすれ声」などの症状があらわれることがある。

2. 甲状腺機能低下症は、血中甲状腺ホルモン濃度の低下による身体（細胞）のエネルギー代謝低下に基づく臨床所見（臨床症状･検査所見）を伴うが、種々の医薬品により甲状腺機能低下症が惹起されることがある。

3. ヨウ素を多く含む薬剤（不整脈などに用いられるアミオダロン、ヨウ素を主成分とした造影剤やうがい薬など）、リチウム製剤、イン ターフェロン製剤、がんの治療薬であるチロシンキナーゼ阻害薬を含む分子標的薬および、免疫チェックポイント阻害薬などで起こることがある。

4. 患者もしくは家族が早期に認識し得る症状としては、甲状腺腫（前頸部の腫れ）、無気力、易疲労感、眼瞼浮腫、寒がり、体重増加、動作緩慢、嗜眠、記憶力低下、便秘、嗄声など、また、女性では月経過多が認められることがある。小児では、学業成績の不振や身長の伸びの鈍化などが認められることがある。多くは非特異的な症状である。

5. 医療関係者が早期に認識し得る症状としては、甲状腺腫、動作緩慢、体重増加、眼瞼浮腫、嗄声、皮膚は乾燥、耐寒能低下、徐脈、心電図では低電位、血液生化学所見で総コレステロールやCK 値の低下などが認められることがある。

参考：重篤副作用疾患別対応マニュアル「甲状腺機能低下症」

## 4. 各委員会･都府県女薬からのお知らせ

### 4-1 2024 年度第二回医療安全 Web セミナー「ハイリスク薬の薬薬連携」参加報告

**愛媛県女性薬剤師会副会長　医療安全推進委員　二宮　治代氏**

日本女性薬剤師会の研修体系の柱である学術講演会と薬剤師継続学習通信教育講座に加えて故近藤芳子前会長は学ぶことへのあくなき探求のため、令和に入り臨床薬学研修会と医療安全Webセミナーを新たに提案されました。

2024年12月8日、医療安全Webセミナーの開催に先立ち、新会長に就任された小縣悦子先生より、このセミナーは他の研修会では類を見ない内容で開催され毎回新たなテーマを取り上げており、今後も継続していくべき研修であるとのご挨拶をいただきました。

第1講は日本病院薬剤師会会長の武田秦生先生より「次世代医療への貢献」というテーマでご講演いただきました。

1）「薬剤師業務の軌跡と未来」では薬剤師業務の現状とこれからについてお話をされました。薬剤師を取り巻く環境は急激に変化しており、病院薬剤師の業務は対物から対人（病棟業務）へとシフトし、バイオシミラーの積極的な使用促進等、病院経営への貢献も重要になってきているということでした。薬局においてはカウンセリングや副作用のモニタリングはもとより、患者さんの容態に合わ

せた受診勧奨やセルフメディケーション等のトリアージをしていくことが期待されると言われました。

2)「ハイリスク薬と薬物治療管理」についてはがんゲノム医療への展開、がん薬物治療と薬薬連携について説明されました。ハイリスク薬の退院後の管理や通院時の管理を病院と薬局の薬剤師がしっかりと連携を取って行っていく必要があること。がん治療薬の研究開発に伴い経口の抗がん剤が増えたことによるトレーシングレポート活用と外来患者へのテレフォンフォローアップの活用を推奨され、がんゲノム医療の周知についても説明されました。

3)次世代医療へ向けてこれからの薬剤師業務のあり方と医療ビッグデータの活用を提案されました。地域でシームレスに薬物治療管理をするためには薬局機能分化が必要であること、医療ビッグデータの活用は近未来の医療において必要不可欠であり、デジタル化に対応するために今後の薬剤師のあるべき姿についても教えていただきました。

武田先生のご講演のキーワードは「シームレス」だと感じました。全ては患者さんや地域住民のために、業種の垣根を越えてスムーズに連携を取る必要性を痛感しました。

第2講はドクターXの収録に協力されている千葉大学医学部附属病院薬剤部長の石井伊都子先生より「ハイリスク薬の薬薬連携—病院薬剤の立場から—」というテーマでご講演いただきました。

地域連携の三種の神器は「臨床検査値活用」「トレーシングレポート」「地域フォーミュラリー」であるとお話しされました。臨床検査値を活用する主たる3つの観点は 1. 重症度評価、 2. 推移、 3. 異常値に伴う症状の有無であり、特にハイリスク薬においては生命維持にも影響する可能性があるため、薬局薬剤師からの積極的な疑義照会が必要だと説かれました。その時には検査値のみならず副作用の具体的な症状も聞き出してフィードバックすること、また疑義照会時には処方提案も大事であると言われました。特に抗がん剤においては急な症状の悪化や患者の転帰に影響する場合も少なくないため、的確で迅速な疑義照会が必要であるということでした。

問題点としては、近隣薬局以外からの疑義照会数が少ないことを挙げられており、かかりつけ薬局の違いによって患者が不利益を被ることの無いよう、薬剤師としての技量の均てん化の必要性を感じました。

第3講はゴダイ株式会社五大薬局青山店(姫路市)の尹享月先生が「ハイリスク薬の薬薬連携—薬局薬剤師の立場から—」をテーマにご講演をいただきました。

疑義照会については成功例だけでなく、失敗例を示していただくことにより、共感でき、また勇気をもらいました。尹先生ご自身が顔の見える関係を築かれているからこその成功例もあり、あきらめず果敢に挑戦される姿に畏敬の念を感じました。そこには豊富な知識の裏打ちがあることは言わずもがなです。訪問看護師さんから他薬局で調剤を受けておられる患者さんの対応を相談され、服用薬剤を調整した結果、患者さんから「薬は減ったのに、体は楽」と感謝されたこと、第62回の日本癌治療学会集会では医師に交じってただ一人の薬剤師として学会発表をされたことなど、町の化学者た

る薬剤師そのものだと感じました。実務実習で指導された学生さんから「かっこいい薬剤師」と慕われ、二人の学生さんが先生の薬局に就職されたことが全てを物語っていると感じた内容でした。

今回も3題共に新たな知識を得るとともに日々の業務のアップデートに役立つ内容でした。

2025 年度も医療安全推進委員会では病院や薬局という垣根を超えた研修会を提案してまいります。見逃し配信はございませんので、是非とも全国からリアルタイムでご参加くださいませ。

**4-2　2024年度薬剤師継続学習通信教育講座　受講者の皆様へ**

**第7回テキスト『爪の病気―見逃さないで、全身疾患のサイン―』**

**1月23日（木）発送完了いたしました。**

**解答書提出の締切りにつきましては2月24日（祝・月）です。**

**2月2日（日）になりましてもテキストがお手元に届かない場合は事務局までご連絡をお願い致します。**　　**第7回解答書提出方法について**

詳しくは　JWPA【一般社団法人 日本女性薬剤師会】(jyoyaku.org)

**5. 医療安全確認クイズの答えと解説　誤りは5　正しくはCK値の上昇である。**

患者もしくは家族が早期に認識し得る症状の多くは非特異的な症状であるので、必ずしも甲状腺機能低下症に限らない。医療関係者が早期に認識し得る症状としては 甲状腺腫、動作緩慢、体重増加、眼瞼浮腫、嗄声、皮膚乾燥、耐寒能低下、徐脈、心電図では低電位、血液生化学所見で総コレステロールや CK 値の上昇、また、女性では月経過多などが認められることがある。

副作用として比較的高頻度に甲状腺機能異常を誘発する医薬品を用いる場合には、投薬前と以降の定期的なホルモン検査や注意深い臨床症状の観察が必要である。薬品によっては、破壊性甲状腺炎を引き起こし、甲状腺ホルモンの過剰症状（頻脈、体重減少、手指振戦、発汗増加など）などに引き続いて、機能低下症状が認められる場合がある。

発症機序：血中甲状腺ホルモン濃度が低下することで甲状腺機能低下症が発症する。その機序には、甲状腺におけるホルモン合成・分泌の低下による原発性甲状腺機能低下症と脳下垂体からの TSH の分泌低下による中枢性甲状腺機能低下症がある。原発性は、投与薬剤によって直接あるいは何らかの免疫学的機序の変動がおこり、その結果、甲状腺ホルモンの合成・分泌の低下が起こる。中枢性は、投与薬剤により下垂体の TSH 産生・分泌の低下がおこり、二次的に甲状腺機能低下症がおこる。また、慢性甲状腺炎（橋本病）などにより甲状腺ホルモン産生予備能があまりない場合や甲状腺ホルモン補充中の患者においては、甲状腺ホルモンの代謝や輸送蛋白(TBG)の変動あるいは腸管からの甲状腺ホルモン吸収を阻害する薬剤により、ホルモン合成・分泌不足により機能低下症が起こる場合がある。薬剤服用中に血中甲状腺ホルモンが低下した場合、医薬品による甲

状腺機能低下症の可能性がある。しかしながら、多くの重篤な疾患患者（悪性腫瘍、心不全、腎不全など）に投与された場合には、原疾患によるいわゆる Nonthyroidal illness(NTI:非甲状腺疾患による低T3症候群)による甲状腺機能の変化か否か鑑別が困難な場合もある。従って、できれば甲状腺機能低下症を誘発することが知られている医薬品を使用する場合には、投与前に甲状腺機能(TSH、FT4、FT3)、および抗甲状腺自己抗体（TgAb や TPOAb)を検査しておくことが望ましい。原疾患、服薬歴と甲状腺機能の関係など、経過・臨床所見によって鑑別することが重要である。

参考：重篤副作用疾患別対応マニュアル「甲状腺機能低下症」

## ６．今後のイベント　日本女性薬剤師会研修会・講演会日程一覧

編集後記

「日女薬カレントニュース第 38 号」を最後まで読んでいただきありがとうございます。

日女薬カレントニュースは 2018 年 12 月創刊号を皮切りに日女薬会員の皆様限定の情報誌として主に日女薬会員ページに隔月掲載し、また都府県女性薬剤師会会長より、皆様に転送していただきました。近年では最新号のみを日女薬ホームページに掲載し、バックナンバーを日女薬会員ページに掲載しておりました。日本女性薬剤師会会員ページ

さらに数年前より並行して日女薬主催の研修・セミナーに参加いただいた皆様に日女薬メールマガジンとして最新情報やセミナー開催案内を毎月配信しております。日女薬カレントニュースは本号を持ちまして廃刊とさせていただき、2025 年度からは日女薬メールマガジンを希望される方に配信させていただきます。メルマガ配信ご希望の方は、以下のメールアドレスに、件名：日女薬メルマガ希望　と記載して本文なしの空メールをお送りください。jwpasafety@gmail.com

これまで日女薬メールマガジンを受信されていた皆様には引き続きメルマガを配信させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医療安全推進委員会

**一般社団法人　日本女性薬剤師会**
**TEL：03-5244-4857**
**FAX：03-5244-4077**
**〒101-0021 東京都千代田区外神田 2 丁目 2-17**
**喜助お茶の水ビル3F**
**E-mail：jwpa@khh.biglobe.ne.jp**
**Web サイト　https://www.jyoyaku.org/**